

憧れの岩稜ルートを たどる贅沢な3泊4日

北アルプスを代表する盟主・槍ヶ岳と、その南方に連なる穂高連峰とを結ぶ岩の主稜線上に、あるエリアだけ大きく切れ落ちた部分がある。

それが今回の特集の舞台となる「大キレット」だ。

漢字で書くと大切戸。つづりからしてもなんだかものものしいが、地図上ではその迫力、深度はなかなかリアルにイメージしにくい。けれど実際、大キレットは名峰をつないで歩く縦走を阻むように北アルプス南部の一角に深

く横たわっていて、いまも登山者の足取りを止めては、「どうだ」と言わんばかりに鋭く口を開けて待っている難所だ。一般登山道であっても、簡単には通してくれないその難易度の高さから、登山好きなら多くが一度は憧れる縦走路なのである。

そうなるとガゼンやる気を出し、果敢に、いやもはや嬉々として立ち向かうのが、今回の元気印の女性メンバーたち。

大キレット踏破は3度目になる「おとな女子登山部」なずな隊長を先頭に、天然キャラと恐るべし健脚の持ち主の部員つじまい、そして特別ゲストとして「ザ・ノース・フェイス」の小澤由

紀子さんを迎えての山行となった。

今回たどったルートは、槍ヶ岳までは岐阜県側の新穂高温泉から槍平、飛騨沢を登高していく静かな新穂高（右股）ルート。槍のテッペンでガッツポーズを決めたあとは、一路進路を南へ取り、主稜線を南下。大喰岳（3,101m）、中岳（3,084m）、南岳（3,033m）を経て、この旅の核心部・大キレットへ入っていく。対岸の北穂高岳の山小屋で一泊して余韻に浸ったのち、あとは一気に涸沢経由で登山基地・上高地まで下る。

山行は雲上の絶景とスリルが連続。夢のような岩稜ルートをたどるそれは贅沢な3泊4日なのだ。

槍ヶ岳から穂高をつなぐ岩の稜線

大キレットを 大攻略!!

HIKING HIGH ON A ROCKY RIDGE.

福瀧智子=文 岡野朋之=写真
荻野なずな＆つじまい（おとな女子登山部）、
小澤由紀子（ザ・ノース・フェイス）=モデル

山の入り口は緩やかな アップダウンから

今回の登山口は岐阜県側、標高約1,100mにある新穂高温泉。2日かけてアプローチする槍ヶ岳山荘までは高低差2,000m近い登りになる。とはいえ、初盤は緩やかなアップダウンを繰り返す沢沿いの気持ちいいルート。木々の間に見える笠ヶ岳や穂高岳を楽しみながら、ゆっくり高度を上げる。写真は登山家・藤木九三氏のレリーフがすぐ先にある滝谷の沢。連日の雨で水量が多かった。



空が近づいて来る
一歩一歩進むたび
稜線の向こうに見える



2日目は槍平小屋から U字谷の飛騨沢に行く

2日目。槍平小屋をあとにし、樹林帯のなか中ノ沢、大喰沢を渡って、最終水場で小休止。そこから先は水河によって形成されたU字谷地形の、広がりのある飛騨沢だ。朝露に濡れた高山植物が朝陽を帯びてキラキラと輝き、ときおり涼やかな風が抜けていく。本日の登りはまだまだ始まったばかり。



雲間に見え隠れするのは 天を突く槍の穂先

千丈分岐を過ぎ飛騨沢の後半になると、急勾配のなか岩塊に埋まつたつづら折れで標高を上げていく。雲間に見え隠れする槍ヶ岳の穂先は、まるで天に届かんばかり。このあたりで3,000mを超える息も上がるが、ようやく登りきると「千丈乗越」だ。右へ視線を送ると翌日たどる大キレットへの縦走路が白く延びていた。

槍の肩から穂先までは標高差100m。取り付いてすぐに登りと下りでルートが分かれ、切れ立った登下降。つじまい頑張れ！



日本のマッターホルンで登頂記念写真。穂先の広さは狭いと感じるか、広いと感じるかは人によってちがうのだそう。ぜひご確認を



**賑わいを離れ、一路南へ
打って変わったその静けさが心地よい**

多くの登山客で賑わう槍ヶ岳周辺が表通りとするならば、大キレットへと南下する縦走路は静かな裏通りというところ。飛び回る鳥のさえずりと、足元で踏みならす石擦れの音だけが響き、打って変わってその静けさがとても心地いい。大喰岳から南岳までは、アップダウンを繰り返しながら岩場や整備された石畳の上をゆく。写真は大喰岳山頂付近から振り返った槍ヶ岳の雄姿。夏の朝の光はツンととがったシルエットを際立たせ、遠方の稜線までもがシャープだ。この朝は風もなく、左に大天井岳や常念岳、右に笠ヶ岳、正面に穂高連峰を眺めながら、雲上の散歩道をたどる爽快なひとときとなった。